

湘南学園だより



発行：湘南学園だより編集部



CONTENTS

子どもを主語に繋ごう	理事長 岩武学	2
今こそE S D ユネスコスクールで繋がる湘南学園	学園長 住田昌治	3
創立90周年を迎える湘南学園！	同窓会会長 山口英昭	4
湘南学園生の勲章は「笑顔」です	後援会会長 近藤えり子	4
笑顔のつながり ～Face to Face～	P T A会長 菅原育子	5
食育ラボより	特定非営利活動法人湘南食育ラボ 理事長 原田ゆう子	5
繋がりを大切に	幼稚園年少組担任 飯田南歩	6
繋がりに生まれる学び	小学校校長 林田英一郎	7
仲間とつながり合える空気感	中学校高等学校校長 伊藤真哉	8
全学教研2022をふりかえって	中高教諭 有園和子	9
海的环境保護について考えよう カーニバル湘南への参加	小学校入試広報主任 前川貴宏	10
2022年度「松ぼっくり基金」のご報告	中学校2年B組担任 川口薫	11
学校法人からのご報告	理事長 岩武学	11
	学園長 住田昌治	12



子どもを主語に 繋がろう

理事長 岩 武 学

早いもので今年度も終わろうとしています。この1年間は大きな責任をお預かりしていることを再認識した1年でした。

改めまして1年間お支えいただいた皆様にご感謝申し上げます。

◆卒業生の皆さんへ

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

中学・高校・幼稚園を卒業される方たちは過ごした3年間のすべてが、小学生を卒業される方も高学年の大切な3年間がコロナ禍だったのですね。たくさん我慢をさせていただいた3年間だったと思います。

いろいろな経験をする子どものときの1年間と私たち大人の1年間は比べようがないほど違います。

社会をつくる大人として申し訳ない気持ちと、そんな中でもたくましく学び続けた学園生の皆さんへ尊敬と感謝の気持ちです。



◆繋がり

湘南学園は11月15日に創立90周年を迎えます。テーマは「繋がりに」です。

私事ですが、2018年にホームページにあいさつ文を書かせていただいたとき、偶然にもそのときのテーマも繋がりでした。



湘南学園は幼稚園から高校までの総合学園です。同じ敷地内に15年分の学びが溢れています。当時子どもたちの繋がりをいくつかご紹介したのですが、個人的な感想を正直に申しますとたくさんあるなとは感じませんでした。以降、皆様のご尽力により、様々なところで繋がりが始まり出した矢先の新型コロナ到来、人と人との繋がりが分断されてしまいました。一度無くなってしまうと元に戻すことはなかなか困難です。皆様の中にも今まで習慣になっていたことがコロナ禍で無くなったという方も多いのではないのでしょうか。ですが、ようやくコロナ禍も出口が見えてきました。せっかく縁あって湘南学園で出会

えたのですから、今こそ諦めず、人と人の繋がりをもう一度紡いでいくチャンスです。

◆子どもを主語に

以前の私は、子どもに話をするときにも「子どものために」「よかれと思って」が自分の中にありました。学校に関わる中、たくさんの方たちに学ばせていただいたおかげでその2つとも「大人が主語」であることに気が付きました。

「子どもが主語」とは真逆の言葉なのではないか、そして、これからの社会を生きていく子どもたちに対し、責任ある私たち大人は「子どもを主語」にこれまでの当たり前を問い直していく必要があるのではないか、そう考えるようになりました。

湘南学園にはいろいろな立場の方たちがいらつしやいますが、関わるすべての人の最上位目的は何？と問われたとき、「子どもたちの幸せ」はみんながそうだと思える最上位目的になり得るのではないのでしょうか。

子どもたちの未来には予測困難な社会が待ち構えています。立場は違っても同じ想いを持った同志である私たちが繋がりを、子どもと大人が互いに学び合い、尊重しあえる空気をつくっていくことが、これからの湘南学園の土台になる、そう確信しています。

◆すべての人が 安心できる学園に

コロナ禍が始まった2020年、これまで最高でも399人だった子どもの自殺者数が初めて400人を超え、499人になりました。それからの2年間も400人台後半が続いています。一人の大人としてとても苦しい思いです。また先日、学校に行けなくなった子どもたちが2021年度、24万5千人(前年比28.6%増)にのぼったとの発表がありました。

コロナ禍の3年間で困っている子どもたちがとてつもなく増えて今、私たち大人にできることは何でしょうか。

人は一人のとき悲しい決断をすることが多いそうです。

まだ経験も少なく、学校という小さな世界しか知らない子どもたちにとって、そこでのトラブルや挫折などは大人が思うよりもはるかに大きな傷となります。子どもたちを苦しめています。そんなとき、たった一人でも誰か繋がっている人がいれば、そう思わずにはいられません。

「学校は子どもたちがいろいろな人たちとも出会う場所です」



ります。

◆最後に

来年度、湘南学園が90周年を迎えられるのは、これまで学園をつくってこられた先輩方のおかげです。その感謝をお伝えする90周年にしたいと考えております。

湘南学園は一人ひとりがつくる学園です。みんなで繋がって一緒につくっていきましょう。



◆ 卒寿おめでとう 湘南学園



私たちの湘南学園は、今年90周年を迎えます。1933年（昭和8年）生まれ

で、人間でいうと卒寿のお祝いとなりませう。そして卒寿のテーマカラーは紫です。70歳の古希や77歳の喜寿と同様のテーマカラーとなつていきます。日本では昔から紫は高貴な色として使われてきました。私も子どもの頃から大好きな色です。湘南学園の建学の精神にもある「気品高く」にもピッタリの色です。さて、湘南学園にどんな卒寿のお祝いのメッセージを送ると喜ばれるでしょうか？

「卒寿おめでとうございませう。山あり谷あり大変な時代を乗り越えてこられたと感謝いたします。生まれてきてくださったから、今の私たちの幸せがあると思います。ありがとうございます。みんなが卒寿のお祝いができて嬉しいです。これからも元気でもっともつと長生きしてくださいね。次は、100歳の誕生日祝いをしましょう」

90周年記念事業については、

今こそESD ユネスコスクールで繋がる 湘南学園

学園長 住田昌治

実行委員会を中心に計画を立て、湘南学園らしく、主体的に準備を進めています。皆様にお力添えいただく場面もあると思いますので、その折にはよろしくお願いいたします。

◆ 温故知新

過去から現在、そして未来へと繋がる湘南学園。90年の歴史を振り返りつつ100周年という大きなステージを展望する年です。「湘南学園ビジョン100」を描く必要もあります。皆さんが描く、100年の湘南学園はどんなイメージでしょうか？私は、希望と可能性に満ちたワクワクする未来を描きたいと思つています。そのため大切な言葉は、決して新しい言葉や流行の言葉ではなく、故きを温ねて新しきを知る「温故知新」だと思つています。先人の知恵に学び、考え方に触れ、深い教えを紐解いていくことから、現在、そして未来へと続く持続可能な社会づくりに活かしていくことです。それは、決して古めかしいことではありません。最近、持続可能性が話題になることが多いですが、遠い昔からの考えに基づく継続的な営みがあつて現在の私たちの

豊かな生活があります。それを私たちが次の世代に引き継ぐときに、独りよがりではなくしっかりと扱った所となるのが、先人の考えです。

私が湘南学園に勤めてから愛読書としていた本は、昭和22年の湘南学園「学園通信」です。そこには、学園長の言葉、幼稚園日より、初等部日より、中学部日より、新任先生紹介、朝礼、訓育、衛生、給食日より、図書日より、音楽部日より、購買部より、教育相談について、動物飼育、後援父兄会・学園PTA、行事予定などが掲載されていきます。76年も前のことですが、興味深いことや大切にしたいことが書かれています。その中でも当時の学園長である宮下正美先生の言葉が目に残りました。そして、その思いに触れて、忘れてはならない湘南学園の魂のようなものを感じます。学園通信の第5号（昭和22年10月5日）には、こんなことが書かれていました。

「愛される学園に 何をしておいても、まず、愛される学園にしなければならぬ」というのが私の念願です。生徒たちが、少しでも早くいそいそと



出かけて来て、さいそくされるまで、いつまでも止まっていたいような学園、私たち親たちが心

来られて、先生や生徒たちとも、お互いにも、楽しくゆつくりと一刻をすごされるような学園。学園をとりまく社会がいつも寛容な微笑を送ってくれ、郷土の誇りとしてくれるような、そんな学園でありたいのです。」と記してありました。他にもたくさん言葉があるのですが、私は全てが現在の湘南学園へのメッセージであり、「湘南学園ビジョン100」の礎になるものだと考えています。

◆ 今こそESD ユネスコスクールで繋がる 湘南学園

90周年を迎える湘南学園の大きな変化の一つに全学ユネスコスクール加盟があります。中高は2013年にユネスコスクールに加盟し湘南学園ESDに取り組んできましたが、昨年、幼稚園、小学校もユネスコスクール加盟申請をして、チャレンジ期間を経て承認される予定です。幼稚園は神奈川県では初めての加盟となり、総合学園としてのユネスコスクール加盟も全国初となると思えます。ユネスコスクールはESDの推進拠点ですので、今後湘南学園が、地域、さらに日本のESDの発信源となる可能性があります。

ESDは、地球社会を持続不可能にしつつある価値観や行動、ライフスタイルに影響を与えてきた教育の在り方自体を変えていくことです。学習指導要領には前文が設けら



れ、これから目指す社会は「持続可能な社会」と明確に示されました。今、漠然とした不安や違和感、排他的な自国中心主義、コミュニケーションの対話力・多様性受容力・共感力の欠如、分断と非寛容な社会が広がってきています。これから先、子どもたちが今までと同じように豊かな生活を過ごせる保証はありません。今、私たちが目の前の問題に真剣に向き合わなければ、これからの時代を生きる子どもたちにとってのツケを払わせることになりませう。学園全体でのESDへの取組は、ユネスコ等が推奨する「ホールスクール・アプローチ」で、学園全体を対象に園児・児童生徒に寄り添いながら推し進めていく「変革」であり、「日々の営み」「学校文化」に変容を迫る過程を大切にすることです。「個性豊かにして身体健全 気品高く 社会の進歩に貢献できる 明朗有為な実力のあふれる人間の育成」この建学の精神にESDとの接点を意識して持続発展する湘南学園にしていきたいと考えています。

創立90周年を迎える湘南学園!



同窓会会長 山口英昭

湘南学園は、皆様ご承知のように今年創立90周年を迎えます。

昨年6月に同窓会会長を引き継ぎ、それまで10数年常任幹事を務め、80周年の行事も経験して参りましたが、コロナ蔓延と云う今までに経験の無かった困難に遭遇し、90周年の行事計画も大変遅れている状況です。

しかしながら着々と計画を進行していくメンバーの情熱は必ず素晴らしい成果をもたらす事と信じております。同窓会としても90周年プロジェクトに協力していきたいと思っております。

同窓会は、昨年より若返りを目指し常任幹事を大幅に入れ替えました。それにより、今迄マンネリ化していたSEASIDE誌面を読者に興味をもつて頂けるような誌面に改革しております。また新たにホームページも一昨年実施したアンケート調査により、ご希望の多かった同窓生経営の飲食店、商店、病院などの紹介や同窓生の消息や活躍状況、クラス会開催予告及び結果報告、個人情報への許す限りの先生方の消息等をこまめに掲載する努力をして参ります。

また1万8千人余の同窓生から要望の多かった年会費インターネッ卜振込の準備がほぼ完了致しましたので、ご不便をおかけするこ

との無いよう今後も努力して参りたいと思っております。

同窓会として、今後も成人のお祝いをカフエテラスで実施される場合はお祝いの生花、記念の集合写真、スナップ写真を撮ってSEASIDEやホームページに掲載して、皆様とお祝いしたいと思っております。

世の中は日進月歩変化して参ります。それに遅れをとらぬよう同窓会として毎年教育振興資金として学園に寄付しておりますが、先生方や生徒さんに有効にお使い頂きたいと願っております。

また、松ぼっくり基金に寄付を頂いた方への感謝の気持ちを忘れてはなりません。建学の精神から今まで培ってきた学園のおおらかさを生かしつつ、自由と規律を守りながら希望を持てる教育の推進に努めて頂きたいと思っております。

今年から住田新学園長、岩武新理事長が就任され、100周年に向けた新たな年がスタートしますが、同窓会としてもPとTの健全な関係を維持し推進していきたいと思っております。

学園を愛してやまない同窓生にとつて、学園がいつまでも暖かい雰囲気でありますように願っております。



湘南学園生の勲章は「笑顔」です

後援会会長 近藤 えり子

卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。大きな壁を乗り越えて、次の未来への挑戦で胸膨らませていることでしょう。これからの人生が幸せに満ちたものであることを心よりお祈りいたします。

ご存じのとおり湘南学園は、創立以来、子どもたちの個性を尊重した自主性を育む自由な教育により、気品高く明朗な将来社会に役立つ人間を大きく育てるという建学の精神を守りつづけてきました。そして2009年にPTA、教員のOBにより、湘南学園後援会が設立されました。

● 後援会について ●

湘南学園後援会は、卒業生の保護者の皆さまが集い、学園のいろいろな事業のお手伝いをさせて頂いております。PTAバザーへの参加や交換留学生の受け入れ、ヤングアメリカンズをはじめ英語力向上機会提供プログラムなどで学園生の学びやチャレンジをサポートさせて頂いております。

また、教育振興基金や食育への取組みへの協力も行い、2018年には、学園卒業生保護者全員加入制にもとづく新たな運営を開始し、さらに湘南学園の魅力を高めようと活動しております。

これも発足準備を含め14年間、常に前向きにけん引して下さいました田辺前会長や諸先輩方の揺るぎない学園愛によるものと、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

PTA時代には、教え切れない素晴らしい方々とお会い、尊び、礼を尽くすことなど人としての考え方や生き方を教えていただきました。

言葉だけではない、一緒にいること、一緒に笑合えることが身体全身に漲ることで夢を実現するエネルギーとなるという事を学び、人が人に与える影響の大きさを知りました。

学園の子ども達との絆こそ湘南学園後援会の温かさだと感じております。この度、少しでも多くの子ども達に学園愛を届けたいと思い、後援会長の襟を受けさせて頂きました。

● 混乱の世の中 ●

思えば、このところの学園生活は怒涛の日々でした。今まで通りの学園生活ではなく、全国一斉休校や分散登校があり、ほぼすべての行事が中止になりました。

世界に目を向けると、大変な地域があり、現代社会で現実には起きていないとは思えない辛い状況です。誰もが経験したことがないことばかりで、実感がわかないかも知れませんが、今だからこそ無関心ではなく、人々の痛みや思いに共感できる人になるために、誰かを想い、何かを考えることが大切だと思います。

● 学園生の勲章 ●

卒業生の皆さまは、これまでの人生で出会った人の誰一人が欠けても、今のあなたは存在しなかったことを忘れてください。それは、見守ってくれた親であり、祖父母であり、支えてくれた先生や地域の人であり、喧嘩をした友だちや励ましてくれた友だちでもあります。しかし、その出会いやその瞬間が時としてあなたを強く成長させてくれたことでしょう。出会った多くの人に感謝の気持ちで忘れないう羽ばたいて頂きたいと思っております。そしていつの日か、我々は「青春はコロナ世代」と言いながら、マスクだらけの写真を見て笑える日が来ることを願うばかりです。

湘南学園生の勲章は「笑顔」です。その勲章を胸に湘南の清々しい風と潮の香の中で成長した自分に誇りを持って活躍し、いつか母校にもどって来て下さるその日まで、温かみのある湘南学園をつくりあげるために、お手伝いをさせて頂きたいと思っております。

〈2022年度 P T Aの日の概要〉

日 時：2022年9月10日（土） 13：30～15：30
 場 所：湘南学園中高ホールからのZoom配信形式
 ※会場の大きさとコロナ感染予防を鑑み、登壇者、教職員、PTA役員、PTAサポート委員以外はZoomによるリモート参加となりました。（リモート参加 80名＋会場参加 50名）

テーマ：①一緒に考えよう！その1～中高生徒のSDGsへの取り組みから～
 ※中高生のプロジェクト紹介 VTRを視聴、グループ意見交換後ひと言発表。
 ②一緒に考えよう！その2～創立90周年に向けて～
 ※住田学園長、食育ラボ原理事長のご講演、SDGs、ユネスコスクールについて学びました。
 ③一緒に考えよう！その3～新たなPTA活動の在り方～
 ※母の文庫の名称について、これからのPTA活動やバザーについてなど意見交換しました。
 ④一緒に考えよう！その4～ICTの取り組みから～
 ※ICT担当小林先生より、学園でのICTの取り組み等、時代の流れをふまえてお話しいただきました。

そして、コロナ感染拡大により2020年度より中止しておりました、「PTAの日」も、形態を少し変えて開催いたしました。中高生徒の皆さんのSDGsに関連した、各種プロジェクトの発表には参加者の皆さまから、大きな反響をいただきました。ユネスコスクールについて、住田学園長よりご講演いただき、湘南学園の取り組み全てが、世界が求める理念につながっているのを知ることができました。湘南食育ラボの軌跡、中高ICT教育の現状、今後のPTA活動について意見交換など、対面とリモートでのハイブリッド形式の初の挑戦となりました。

17年間湘南学園でお世話になりました。時間の移ろいで様々な変化がありました。変わらないもの。それは学園ならではの「あたたかいつながり！」です。

来年度湘南学園は90周年を迎えます。皆さんの学園を大切に想う気持ち、そして笑顔がつながりますように。愛する湘南学園の輝ける未来を、心より祈念いたします。

今年度も、会員の皆さまにはPTA活動にご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。対面での活動再開の第一歩として、PTA援助費企画を各学年委員の皆さまを中心に、企画、運営していただきました。教育、文化、食など多岐にわたり趣向を凝らした、実りある企画となりました。高3の桂柄天神社参拝に私も参加いたしました。3年ぶりの大変楽しい時間でした。ご尽力いただきましてありがとうございました。

〈2022年度 P T A援助費企画〉

学年	企画と内容
年少	子育て講座『絵本から子どもの心を考える』 (講師) 帝京大学名誉教授杉本真理子先生
年中	講演『どう進める？家庭で出来るお金の教育』 (講師) 泉美智子先生 子どもの環境・経済教育研究室代表
年長	初めての太極拳と気功講座 (講師) 大塚しほ先生
小1	『スクールランチを体験しよう！』 ～ランチとカフェテリア職員による食育のお話～
小2	講演 性教育のお話 (講師) 宗藤純子先生『親も学ぼう！性と生の昭和脳アップデート』、カフェテリアでのフットワーク懇談会
小3	『言葉のチカラ～今かける言葉で未来の見える世界が変わる～』
小4	『ロールオンアロマオイル制作』 (講師) 日本アロマコーディネーター協会認定インストラクターOhioishuo Aroma 石田明子(しさい組保護者)
小5	性教育に関する講座『みんなを守る性のお話』 (講師) 小児科かるがも藤沢クリニック 江田院長(小5保護者)
小6	『大人の遠足～鎌倉殿の13人その後～北条義時とその息子たち』 湘南学園ご卒業の極楽寺ご住職による講和、宝物館見学
中1	講演『これからの時代を生き抜く子どもたちに必要な「見えない学力」の育て方』 (講師) 木村泰子先生(大阪市立大空小学校 初代校長)、カフェテリアランチ会
中2	講演『湘南学園での学園生活 そして現在～フードロス・現代の食の問題への取り組み～』 (講師) 山内裕樹シェフ(湘南学園OB)
中3	大学受験に関する情報 高等部の学習指導の石原先生
高1	『心穏やかにプーチン茶会』～日本文化に触れる茶道体験～ カフェテリアランチ (講師) 金子貞夫先生
高2	茶話会『保健室や学習担当の先生のお話をVTRにまとめ上映しながら保護者親睦会』
高3	『鎌倉在柄天神社での合格祈願ご祈禱』とカフェテリアでの懇親お食事会



＊10周年を迎えて

早いもので、我が特定非営利活動法人湘南食育ラボは、お陰様でこの11月に10周年を迎えます。山あり谷ありの10年間ではありましたが、スタートメンバーであり私にとりまして感慨深いものがあります。

当時を思い返してみますと、試行錯誤の繰り返しで、失敗も数多くありました。今となつてはその失敗がラボをここまで成長させてくれたのだと思います。

10年私たちが続けることができ、この10年、保護者の皆様をはじめ、学園の先生方・同窓会・後援会・地域の皆様の協力なくしてはなかったと感謝に堪えません。

＊食育推進企画

私たちは、常に食への問題意識をもち、安心・安全そしておいしさへのこだわりを忘れずに食育に取り組んでいます。

その中で、昨年11月には、食育推進企画として、映画「いただきます 高ホールにて3回上映、小林管理栄養士と「侘いかす」の白土氏とのディスカッションも実施し、60人の方々に参画していただきました。この上映で改めて食を通しての生

＊未来に向けて

きる力を育むことの大切さを確認しました。健全な食生活を実践することが出来る人間を育てる…まさに私たちの活動そのものなのです。このような仕事に関わっていることは本当に幸せなことだと思っています。

また、この1月末には、住田学園長を介し、「大阪・関西万博」とくしま魅力発信チャレンジャーの1環として、Macuisineプラス2とのコラボでカフェテリアランチ(小5)を企画、実施いたしました。徳島県と神奈川県、食材を使ったフランス料理を提供し、エシカル消費の重要性を伝えると共に、SDGsの推進にもつながっていきたくと考えています。

コロナ禍に加え、世の中の物価上昇により、9年間維持してきた定食とランチ、みゅーあカレーの価格を値上げせざるを得なくなりましたが、今後もより一層のコストパフォーマンス向上に努めて参りますのでよろしく願っています。

そして、これからは益々学校との連携を密に相互協力し、子どもたちのために食育に真摯に取り組んで参ります。

繋がりを大切に



幼稚園年少組担任 飯田南歩

コロナ禍も4年目に入り、緩和されることも増えてはいますが、まだ様々な生活の場面での制限は多く、以前のような生活は難しくなっています。幼稚園の生活も以前と同じようにとはいかないものの、人と人の繋がりを大切にしながら、子ども達と共に日々の生活を送っています。

🎄クリスマスコンサート

コロナ禍で学園内の交流が難しい中、感染対策をしながら形を変えて、長く続いているものがあります。中高アリーナで行われるクリスマスコンサートです。中高の吹奏楽部のお兄さん・お姉さんがクリスマス曲や子どもたちの身近な曲を、素敵な音色の楽器で聴かせてくれるクリスマスコンサート。二十年ほど前から続いている交流の一つです。事前に吹奏楽部の代表者が来園し、子どもたちの好きな曲などをリサーチして、子ども達が楽しめる工夫をしてくれています。子ども達は前日に先生から曲目を聞き、翌日のコンサートを楽しみに登園する姿



が見られます。年少の子どもたちは、初めてのアリーナ。なんだかいつもと違う雰囲気を感じながら、これからどんなコンサートが始まるのかドキドキ・わくわくしていることが子どもたちの表情から伝わってきました。コンサートが始まると、「この曲知ってるよ!」「これさくらさん(年長)がらんらんここにこいらんど(運動会)で踊った曲だね」など口にしなが、演奏に合わせて歌ったり、踊ったりと楽しんでいました。楽器の紹介では、様々な楽器の音色に釘付けになっていました。「また行きたいな」「今度は僕たちが踊った曲やってくれるか

👧高校生との出会い

な」など、終わった直後から来年のクリスマスコンサートを楽しみにする声が聞かれました。

日々の保育の中で、小学校や中高などへお散歩に出かける機会も多くあります。小学校の校舎に行ったり、カフェテリア近くにどんぐりを拾いに行ったり、中高の大グラウンドで思いっきり走ったり。年少組でカフェテリアにお散歩に出掛けた時、素敵な出会いがありました。十月、中高が学園祭の準備期間だった頃、ある高校一年生のお兄さんと出会いました。空高くに何かが飛びあがるのを見て、子ども達は「なにしているの?」とお兄さんに釘付けでした。そのお兄さんは、学園祭で披露する「中国ゴマ」を練習しているところでした。

中国ゴマは、二本の棒とそれをつないだ紐の上で、おわんを二個つなげたような形のコマを回し、空中に放り投げるなどの技を楽しむものです。次第に集まってきた子ども達に緊張した表情のお兄さんでしたが、練習中の中国ゴマを披露してくれることになりました。「もつと高く!」「もう一回!」と目を輝かせた子どもたちの沢山のリクエスト

を快く受け、何度もやってみせてくれました。園に帰ってからも、「お兄さんすごかったね」「また会えるかな」と、子ども達に色々な気持ちを芽生えさせてくれました。

お兄さんとの出会いから少し経ったある時、私が中国ゴマを園で練習していると、子ども達から「あのお兄さんに教えてもらったら?」と話があるほど、鮮明に記憶に残っているようでした。



コロナ禍以前は、高校二年生の家庭科の授業で『幼稚園訪問実習』があり、高校生が幼稚園に来て、子どもと関わる機会がありました。私自身も高校二年生の時、この実習を体験しました。日頃、関わることのない自分よりもはるかに年下の小さな子ども達。当時は、どんな風に関わった方がいいのだろう、力加減はどのくらいだろうとドキドキしながら訪問したことを覚えています。しかし、終わった後



の感想は「楽しかった!」の一言でした。子どもと関わるのがこんなにも楽しいことなんだと強く感じさせてくれました。

近年、人と人の繋がりが減ってきたといわれていますが、身近に自分よりも年下の子ども達がいる、また、憧れの存在となるお兄さん・お姉さんがいる環境は、幼稚園から高校までの総合学園だからこそであり、とても恵まれていると思います。

コロナ禍で、パートを超えた関わりや繋がりをこれまで通りの形でもつことは難しくなっていますが、今できる繋がりを大切にしながら、これから先も幼稚園・小学校・中学校と学園全体で学園らしい交流の機会が増えていくよう、繋いでいきたいと思えます。

繋がりがから生まれる学び

小学校校長 林 田 英一郎



小学校では、生活や総合の学びの中で体験を重視しています。体験を通して、ひとやものが繋がっていき、そこから色々な新しいことが生まれていきます。そんな小学校の学びを六年生の二期の総合学習から紹介していきます。

六年生は「世界を感じ、未来を創るー」をテーマに、ZOOMで現地とつながりながら、日本国内や世界の国々に目を向けて、環境問題を中心に考えていきました。

日本国内では、葉山町や佐渡島、広島の大崎上島の小学生とつながり、それぞれの地域や環境の課題について交流しました。

また、世界の国々では南アフリカ、フランス、インドネシア、中国、カナダ、チリに在住の日本の方々から現地の色々なこと、環境のことについて伺いました。



ウクライナの首都キウワで教員をやっている現地の方と、ウクライナに向かった日本の方との交流の中では、未だロシアの軍事侵攻が続いている戦火の地での暮らしの厳しい現実を伺い、平和について改めて思いを巡らすこととなりました。



フィリピンの小さな島・カオハガン島のオーナー、崎山さんをお迎えして、現地のカオハガン・ハウスとZOOMで繋ぎながら、便利さにあふれた私たちの暮らしとは全く異なる生活スタイルを紹介していた中で、環境問題として「便利な生活」を考え直すきっかけも生まれました。また、藤沢市民マラソンに招待されたマイアミビーチ市

の小学生のご家族が小学校に来園されて、授業見学や六年生との交流の時間を持つことができました。六年生の代表は、ここまでの経験から立派なプレゼンテーションを行いました。

今年度は中高との間でも、様々な繋がりが生まれました。児童会活動では、図書委員会が、中高の図書室に出かけてその蔵書数や視聴覚資料に圧倒されたり、中高の図書委員の皆さんに小学校の委員会の皆さんに来ていただいて、中高での活動についてプレゼンテーションしてもらいました。

もともと図書委員会での活動が好きな児童にとっては、中高生になってからの活動の幅の広がりに興味津々の内容だったようで、楽しい時間を過ごすことができました。



二期には、中高のプロジェクト活動として「不用品の回収」が小学校で展開されました。小学校を卒業した高二のお

二人を中心とした企画で、朝のニュースタイム（オンライン集会）に出演して不用品の回収を呼びかけてから、メディアアセンターと六年教室前に回収ボックスを設置してくれました。この回収ボックスは、子どもたちが色々なものをたくさん持ち寄ってきたので、二期期末には大変な思いをして中高まで運んでいってくれました。



中高との繋がりとこの点は、アフタースクールが継続して様々なプログラムを実施しています。

まず定例の活動となっているのが「アフターラボ」。中高のメディア室に出かけて、3Dプリンターやレーザーカッターなどでデジタルデータをもとにしてのもの作りや、手軽に直感的にプログラミングにチャレンジできるMESHというツールを使っています。夏以降は、水曜日の放課後一時間ほどを、中高の小林先生や中高生の力やお知恵をかりて活動を続けています。

また、放課後の小学校ホールを共用しているバドミントン部とは、アフタースクール

の児童にバドミントンを教えてもらうコラボ企画も実現しました。

アフタースクールが力を入れているSDGsに関わる活動についても中高でプロジェクトに取り組んでいる皆さんを講師としてお招きする企画が生まれました。これまでも「ゴミを生かして！ポーチ作り」や「SDGsワークショップ」として実現しています。

「ゴミを生かして！ポーチづくり」は、小学校のSDGs活動事例集を書籍としてまとめるための取材を受けることにもなりました。こうした活動の中で、小学校の児童は中高に進学していったお兄さん・お姉さんの活躍の一端を、自らも体験しながら学んでいます。



仲間とつながり合える空気感



中学校高等学校校長 伊藤 眞哉

●活発なプロジェクトと生徒会

中高では、近年、自分たちの興味・関心にそった自主的な活動（校内では「プロジェクト」と呼んでいます）が盛んにおこなわれるようになりました。世界平和や環境保全、飢餓や児童労働、ジェンダー平等など、SDGsの各ゴールにつながるような活動目標を持ったグループもあれば、ICT機器の活用推進や受験生への学校紹介など、身近な学校生活をテーマに活動を続けているグループもあります。すべてのプロジェクトは生徒側の提起から始まり、同じ問題意識を持った生徒に呼びかけて仲間を集めるとともに、一緒になって伴走してくれる先生がいてくれて初めて成り立つ活動なのですが、部活や委員会活動とも違うこうした活動が、いま中高ではあちこちで起ち上がっているのです。もともと中高では生徒会活動が活発で、新入生歓迎会、体育祭、学園祭、合唱コンクールといった主要な学校行事を自らの手で創り上げていく生徒主体の気風がありました。



が、そうした自主性が学校生活のさまざまな場面で発揮されるようになったことを、とても嬉しく、頼もしく感じています。行事もプロジェクトも、たった一人ですべてを動かしているようなものではありません。そこでは常に「多様な人々と協働する姿勢」というものが求められます。いろいろな価値観や考え方を持った多数の人たちと関わり合い、一緒になって事bec成そうとするためには、想像以上の時間と労力が必要ですし、時には葛藤や衝突もあるかも知れませんが、しかし、それら乗り越えて、ともに協力し合う関係性を創り出していけるような「しなやかさ」が多くの生徒にそなわっていることは、湘南学園ならではの良さであると実感しています。

●幼小の教育こそ原点

湘南学園生に「周囲の人たちをしなやかに受け容れながら、お互いに協力していこうとする姿勢」が身についている背景に、幼小の教育実践があることは間違いありません。幼稚園の先生方は常に子どもたち一人ひとりと視線を合わせながら、どうしたらその子の意欲を引き出せるのか、どうしたら友だちと認め合う関係がつけられるのかということと一緒に考えて、その子にわかる言葉で伝えていきます。思い思いに好きなことに取り組んでいるように見える遊びの時間でも、わくわくデー（お泊り保育）についてみんなで考える話し合いの時間でも、一人ひとりが安心して自分の意見を言ったり、友だちの意見になるほどと素直にうなずいたりできるのも、そんなふうに関わり合える関係性からではあるかと思っています。そして、小学校に上がってからは6年生のおにいさん・おねえさんたちのサポートを受けながら、一人ひとりの視野もどんどん広がっていき、縦のつながりを大切にしながら児童会の取り組みも始まります。行事や総合学習といった学校生活のさまざまな場面で、先

生方のあたたかいまなざしのもと、子どもたちなりのアイデアを形にしていくなため、さまざまな意見交換が行われ、ともに力を合わせて何かを創り上げる達成感とともに、お互いの存在を深いところで認め合う信頼関係が醸成されていくのです。こうした姿勢は、教科書による学びを超えた、より深い体験として、学園生の皆さんの心の奥底に根づいているものと思われまます。このように、中高生の皆さんが物事に主体的に協力し合って取り組もうとする姿勢の根底には幼小からの学びと体験が息づいています。もちろん中学受験を経て入学される皆さんもたくさんおられますが、そんな彼ら・彼女らもいつの間にか学園ならではの空気感を身につけていくのだから不思議なものです。

●世代を超えた、つながりも！

高校3年を終えれば、それぞれが異なった進路に踏み出していく中高ですが、卒業後もそのつながりは続いていきます。今や恒例となった20歳のつどいは、同窓会の皆さまのお力添えをいただきながら、今年も実施することができました。また、コロナのために集まれなかった2018年度の卒業生たちも、後援会の皆さまによる全面的なバックアップにより、つい先日、なつかしいカフェテリアに集まることのできたのです。こうした世代を超えたつながりが形になって現れてくることも学園ならではの良さです。湘南学園も次年度で創立90周年を迎えますが、こんな多くの宝物を生み出してくれる総合学園としてのつながりを大切にしながら、中高としても、日々の教育活動をさらに充実させていければと考えています。



全学教研2022をふりかえって

湘南学園90周年から100周年の学園教育を展望する

中高教諭 有 蘭 和 子

「まだ3歳の子どもたちが、どうやって家族と離れ、見知らぬ集団の中に入っていくのか：お互い別のパートにいると全然知らない」：こんな会話から始まり、久々の対面実施となる全学教研は、幼小中高それぞれの実践を、通して共有し会える場にしようと決まった。

※幼稚園の実践報告から

一人ひとりと目を合わせて：今の気持ちを受け止める
先生と目があってニツコリ

飼育しているウサギに会うこと
お気に入りの遊びができること
：それを楽しみに登園する子
遊びをリードする年長児さん
たちは、小さい子を見て少し
前の自分を振り返り
温かく年少児を受け止める：

こんな詩のような語り口で
始まった幼稚園の実践報告。
学園幼稚園が、「子どもたち
にとつての安心」を、どれほ
ど大切にしているか。そして、
子どもの発達に視点をおき、
どう働きかければ子どもたち
の意欲を引き出せるかがじつ
くりと伝わってきた。

※豊かな「年長さん時代」の 経験を土台にしなが ら小学校へ 高学年での実践報告：

「先生はどんな人だろう」「友
達いるかな？」：上級生にな
っても、初めは本当に不安だ

いろんな不安をかかえて子
どもたちは教室に入ってくる
が、きつかけとなつたのは、
サマーフェスティバル。普段
あまり声を出さない子が「ジ
ェットコースターやりたい!!」
と言った。

「えっ?」「ど
うやるの?」：
みんな興味津々。
それでも21名が
同意した。
もうやるしかない!



担任は当然あれこれ心配に
なるが、「未知のものにわくわ
くしている。やってみよう!!
というエネルギーは、どうし
たつて大切にすべき」ここで
担任も腹を括る。

「みんなを説得できる企画書
を!」「もしそこでダメなら、
それは考え直さねばならない
んじゃないか?」と子どもた
ちに提起した。

リーダーのもと、みんなの話
し合いが始まる。
臨場感・軌音・プロジェク
ターに映像写そう・風も来る
子どもたちは、次から次へ：
アイデアを出してくる。

この後、企画書を書き上げ
たリーダーたちは、児童会の
教員のもとに開催申請をしに
いき、みごと開催許可をもら
って、誇らしげな顔をして教
室に戻ってくる：共同研究者
の佐藤隆先生（都留文科大
教授）は、次のようにコメン
トされた。

『小学生たちは、「自分に
つて実りあるものにするため
には、仲間が必要だ」と学ん
でいる。「協働なしに主体も
ない。主体がなければ協働も
作れない」：2つはセットに
なっているのだ。

そして教育の原動力は、興
味! 探求する興味、自己を表現
する、制作する興味。それら
束ねるものとしてのコミュニ
ケーション。彼らは、自己と他
者の関係性の大切さも学んだ。
教育実践は、子どもの中に
在する資源：「興味」に依拠
し、作っていく必要がある。

※市民としての自治力 を育てる中高実践

あらたに中1生を迎える学年
団は、週イチでランチミーテ
ィング。自分らも互いに信頼でき
る関係性を築く努力を始めた。

：そこで大切にしようと決め
たのは、「教員が抑えに行っ
たらダメ!」「なるだけ彼ら
と同じ時間を共有しよう」と
いうことだった。

こうした中で、生徒による
「クラスリーダー会議」や「学
年クラス委員会」も生まれた。

「今うちのクラスはこうだよ
ね。」「うちの学年の課題は?」
と話しあう：

その中で、「自分のクラスをこ
うしたい!」という思いが生
まれる。



もちろん、
うまくいか
なくてもそ
れを共有し
あいつつ、
リーダーの仲間意識も育つ。
彼らの成長と共に、各HRの
中にも少しずつ変化が。
「教員の兵隊」ではなく、育て
るのは、彼らの「自治の力」

※「主権者」としての 社会認識を育てる

中3「平和学習DAY」を
きっかけに、生徒たちは「戦
争と環境」「戦争と貧困」な
ど：様々な問題を「構造的に
捉えること」が重要だと気づ
いていった。

「当たり前は変えられる」「当
たり前は人間が作ったのだから、
新しい当たり前を作るの

は市民の力なんだ」

高1になった彼らは、コロ
ナ休校中、動き
出した。「ずつ
と家において、課
題だけ出されて
孤独だ」、「ひよつとすると
みんなも不安?」：このアン
ケート活動に、学年生徒の93%
が答えてくれた。高1総務委
員たちが、この結果を学校に
伝えた結果、オンライン配信
や、課題の出し方に少しだが
変化が生まれた。



彼らは、それまでの様々な
出会いの中で、「自分たちは
1人ではない。微力だけど、
無力ではないんだ」：そう確
信していたのだろう。

※100周年に向かつて

全学教研を終えた数日後、
実行委員会で「90周年から100
周年へ、これまでの学園教育
を振り返り、次に何を活かす
か：」をテーマに意見交換。
キーワードとなつたのは「繋
がり」だ。幼稚園から小学校、
中高へと、豊かな
な発達をつづけ
る子どもたち。
その発達に寄り
添う私たちこそ
が、繋がりがあ
って学び、気づき
あい、豊かに実
践していくこと
が大切だ：と。



海の環境保護について考えよう

カーニバル湘南への参加

小学校入試広報主任 前川 貴宏

湘南学園は、地元根付いた学園だと感じます。地域のひとと話す、「親族が学園出身です」「古くからの友人に学園の卒業生がいます」とつながりがよく話題に上がります。

同様に湘南の文化の影響も強く感じます。特に、海の環境保護に関心をもったり、実際に関わったりする子どもたちや保護者や教職員も多いでしょう。また、幼小中高それぞれが「持続可能な開発のための教育(ESD)」に取り組んでいます。

さて、文化の日(11/3)、「カーニバル湘南」に本学園が参加しました。この辻堂海浜公園で開催されたイベントは、地域のひとと協力しながら、地球環境や海洋保全に配慮した生活様式を考える機会を目指しています。初めてと「ゴミをまったく出さない」という目標を掲げていました。この目標は、参加者が1万人を越える中でも達成できたようです。キッチンカーなど多くの出店があっても、参加者が食器などを持ち込むことで、ゴミ箱が必要なくなりました。素晴らしい成果だと思います。



湘南学園のブースでは、「環境について



て/いっしょに/考えてみませんか?」というメッセージと共に、環境について学習したま

参加でした。小学生の展示は、今の5年生が3・4年の時に総合学習で取り組んだまとめです。3年生のとき、磯観察などの体験を通して、海の豊かさと共に、ゴミが落ちていることに気づきました。特にプラスチックゴミの多さには、衝撃がありました。子どもたちは、ビーチクリーンをするだけでなく、この危機感を発信することまで考えるようになりました。オンラインでのイベントに動画を作成して発表したり、ビーチクリーンで拾ったゴミを材料に「海の豊かさを守るう」を作ったりしました。



写真提供/藤嶋人

4年生では、海につながる川や森の役割を学びました。また、環境活動家の露木志奈さんから世界の環境問題について、話を聞きました。「年齢なんて関係ない」という熱のこもったメッセージ

は、子どもたちに大きく響いたようです。環境問題を発信するため、神澤清さんと協力して「未来への風」というオリジナル楽曲の制作に至ります。ブースでは、このような学習の中で制作されたものを展示しました。オリジナル楽曲は、メインステージで神澤清さんがライブをしてくださいます。子どもたちも飛び入り参加です。さらに、子どもたちは「海の生き物を守ろう」と来場者への呼びかけも行いました。

湘南学園のブースには、在校生や保護者の方だけでなく、卒業生や地域の方が多数来てくださいました。子どもたちにとって、地元の人に発信する機会、大きな価値がありました。また、湘南学園がより地元の方とつながりをもつ素敵な機会となったと思います。

中学2年B組担任 前川 貴宏

今年度の中学2年生の総合学習では、自分達が生活している神奈川県に暮らす人々が、地域を守り続けるために、どのような工夫や努力をしているのかを探り、その方々の生き方に触れ、自分達にできることは何かを考えました。

学習テーマのひとつである「海の環境と海洋ゴミ問題」については、中2Bの生徒たちが学習を行ないました。この



体験や取材を行ったことにより、自分達の問題として考えられた生徒がとて多かったです。この様に海を守り続けている様々な方と繋がることでできたことは、中2Bの生徒にとつて、とても貴重な学習の機会であったと感じています。また、総合学習で学習した海の環境問題について、小学校とのコラボ企画として11月3日に辻堂海浜公園で開催された「カーニバル湘南」にB組の有志の生徒と共に参加しました。

例年であれば、総合学習で学習した内容、学年内だけの発表に留まってしまうのですが、この「カーニバル湘南」に参加したことで、自分達が学んだことや考えたことなどを校外の方々に発信する機会となつたことは、生徒達にとつても大きな力に結びついたと思っています。

総合学習や地域のイベントを通じて、神奈川県で活躍している方々や地域の方々と繋がったことは、生徒たちの視野の広がりと考え方に刺激をいただいたと感じています。今後も人と人の繋がりを大切にしながら、生徒と共に学習活動を行っていきたいと思っています。



2022年度「松ぼっくり基金」のご報告

理事長 岩 武 学
学園長 住 田 昌 治

2019年10月に基金を創設して以来、現在まで大変多くの方からご寄付をいただいております。これまでにいただきました寄付金総額は、2022年12月末日現在で37,802,707円に達しました。心からお礼を申し上げます。

本号では、別紙といたしまして、ご寄付をいただきました方々のご芳名を掲載させていただいております。また、ご寄付をいただいた方々の意向を踏まえ、幼稚園、小学校、中学校高等学校における活用の状況を一部のご紹介となっておりますがご報告申し上げます。

幼稚園



多目的ひな段



園庭ウッドデッキ

小学校



姿見 ダンス練習で使用



お弁当箱を各クラスに配る時に使用。衛生管理も容易で、臭い移りも軽減。

中 高

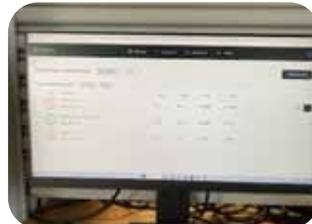


ハンドボール部高校男子
・ユニフォームを新調
・試合撮影・ゲーム分析用iPad
・日頃の練習でデジタルタイマーに活用させていただきました。



ご寄付いただきありがとうございます。ソプラノサクソスの購入代金の一部に活用させていただきました。

小学校・中高



パイポーライオン空気浄化装置（小学校メディアセンターと中高アリーナ・サブアリーナに設置、写真は監視モニター）

ご報告が大変遅くなりましたことをお詫び申し上げます。今後も在校生の活動に資する取り組みに積極的に努めてまいります。引き続き皆様からの温かいご支援を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

松ぼっくり基金 年度毎集計表

寄付金合計金額	2019年度(2019年10月～開始)				2020年度				2021年度				2022.4月～2022.12月				合 計 (2022.12.31現在)																							
	4,993,000								7,339,569								7,305,000								18,165,138								37,802,707							
	合計		内、継続寄付		合計		内、継続寄付		合計		内、継続寄付		合計		内、継続寄付		合計		内、継続寄付		合計		内、継続寄付																	
用途別	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額																
一般寄付金	111	2,551,334	1	5,000	13	927,507			82	3,313,334			62	2,090,000	1	100,000	268	8,882,175	2	105,000																				
学園高校生の海外留学支援	2	18,333	1	10,000	1	10,000			2	15,000	1	10,000	3	30,000	1	10,000	8	73,333	3	30,000																				
学園中高生の部活支援	19	608,333			3	180,000			14	585,000			15	972,500			51	2,345,833	0	0																				
学園小学校の教育環境支援	18	395,000	1	50,000	15	860,062	9	135,000	37	2,283,333	14	115,000	30	1,182,000	11	145,000	100	4,720,395	35	445,000																				
学園幼稚園の教育環境支援	1	15,000			0	0			30	635,000	22	440,000	16	640,000	9	270,000	47	1,290,000	31	710,000																				
特別教職員採用・教職員研修支援	1	75,000			0	15,000			4	118,333			2	82,500			7	290,833	0	0																				
その他	3	45,000			17	306,000			3	215,000			3	12,833,138			26	13,399,138	0	0																				
記入なし	23	1,285,000			3	41,000			7	140,000			6	335,000			39	1,801,000	0	0																				
教育振興寄付金より	0	0			1	5,000,000			0	0			0	0			1	5,000,000	0	0																				
合 計	178	4,993,000	3	65,000	53	4,993,000	9	135,000	179	7,305,000	37	565,000	137	18,165,138	22	525,000	547	37,802,707	71	1,290,000																				

※用途が複数の場合は、件数は記載順でカウント、寄付金については均等に分配

関係別	合計		内、継続寄付		合計		内、継続寄付		合計		内、継続寄付		合計		内、継続寄付		合計		内、継続寄付	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
卒業生	102	2,393,000	2	15,000	16	140,000	7	35,000	23	1,355,000	14	75,000	22	645,000	11	155,000	163	4,533,000	34	280,000
在校生保護者	59	1,455,000	1	50,000	16	6,695,000	2	100,000	141	4,175,000	23	490,000	105	4,370,000	11	370,000	321	16,695,000	37	1,010,000
(高等学校)	(15)	(490,000)			(4)	(185,000)			(34)	(1,230,000)			(28)	(1,280,000)			(81)	(3,185,000)	0	0
(中学校)	(14)	(330,000)			(3)	(300,000)			(31)	(605,000)			(25)	(685,000)			(73)	(1,920,000)	0	0
(小学校)	(24)	(535,000)	(1)	(50,000)	(9)	(6,210,000)	(2)	(100,000)	(41)	(1,600,000)	(1)	(50,000)	(33)	(1,735,000)	(2)	(100,000)	(107)	(10,080,000)	(6)	(300,000)
(幼稚園)	(4)	(85,000)							(41)	(545,000)	(22)	(440,000)	(15)	(560,000)	(9)	(270,000)	(48)	(1,190,000)	(31)	(710,000)
(記入なし)	(2)	(15,000)							(6)	(195,000)			(4)	(110,000)			(12)	(320,000)	0	0
教職員	0	0			0	0			1	200,000			1	5,000			2	205,000	0	0
一般	3	30,000			0	0			4	40,000			4	12,845,138			11	12,915,138	0	0
企業・法人	1	1,000,000			0	0			6	1,310,000			4	280,000			11	2,590,000	0	0
団体等	0	0			3	377,569			1	170,000			0	0			4	547,569	0	0
フラワーガーデン有志	0	0			16	116,000			0	0			0	0			16	116,000	0	0
記入なし	13	115,000			2	11,000			3	55,000			1	20,000			19	201,000	0	0
合 計	178	4,993,000	3	65,000	53	7,339,569	9	135,000	179	7,305,000	37	565,000	137	18,165,138	22	525,000	547	37,802,707	71	1,290,000

※関係が複数に渡る場合は、件数および金額は記載順でカウント(企業法人で複数に渡る場合は、企業・法人でカウント)

●●●●●●●●●● 学校法人から ●●●●●●●●●●

●理事会報告

これまでに開催された理事会についてご報告いたします。

第1回定例理事会	4/2
第1回臨時理事会	4/23
第1回常任理事会・第2回臨時理事会	5/6
第2回定例理事会	5/21
第3回臨時理事会	5/25
第4回臨時理事会	6/11
第3回定例理事会	6/25
第4回定例理事会	7/16
第5回定例理事会	8/20
第6回定例理事会	9/24
第7回定例理事会	10/22
第8回定例理事会	11/19
第9回定例理事会	12/17
第10回定例理事会	1/21



●主要な議題・報告等

- ・理事長の選任について
- ・副理事長1名の選任について
- ・常務理事3名以内の選任について
- ・理事職務分掌について
- ・幼稚園隣地購入について
- ・監事の選任について
- ・2021(令和3)年度事業報告書の確定について
- ・2021(令和3)年度決算書の確定について
- ・バイポーライオン空気浄化システムの導入について
- ・90周年委員会の立ち上げについて
- ・2022年度固定資産の除却(案)の確定について
- ・育児介護休業規則・就業規則の改正について
- ・2023年度予算編成方針(案)について
- ・ネットワーク環境整備について
- ・中高ホールAV機器の更新について
- ・ストレスチェックテスト結果報告会

●評議員会報告

これまでに開催された評議員会についてご報告いたします。

第1回評議員会	4/2
第2回評議員会	5/21
第3回評議員会	9/24
第4回評議員会	1/21



●主要な諮問事項等

- ・理事の選任について
- ・監事の選任について
- ・2021(令和3)年度事業報告書の確定について
- ・2021(令和3)年度決算書の確定について
- ・2022年度固定資産の除却(案)について
- ・バイポーライオン空気浄化システムの設置について
- ・90周年事業の報告について

●食育推進費の使途につきまして

今年度の評議員会でご質問いただいた食育推進費の使途についてお答えいたします。
 全額を湘南食育ラボへの委託費として使わせていただいております。

●今年度の食育推進企画

- 幼稚園保護者向け食育講座
- 映画「いただきます ここは、発酵の楽園」上映会(3回) ㈱いかす白土さん講演会
- とくしま魅力発見事業×Ma Cuisine カフェテリアランチ(小5)

引き続き湘南学園の食育推進を進めてまいります。

●●●●●●●●●● 学園所有地の売却につきまして ●●●●●●●●●●

学園では昭和46年に那須ハイランド別荘地内(栃木県那須町)の土地を購入し現在まで保有し続けてまいりました。総面積は四区画で約3968平米となりますが、学園として有効に活用してきた実績がなく、今般売却の意思を学校法人として決定しました。

つきましては、学園関係者の皆様に広くご案内し、有効に活用いただける方に購入いただけることを望んでおります。ご意思のある方は、法人事務局長清水までご連絡を頂きたくお願いいたします。連絡先は、0466-23-6611(代表番号)です。

●●●●●●●●●● 事務局からのご連絡 ●●●●●●●●●●

●住所変更のお手続きについて

お引越し等の事由により、ご登録頂いている住所が変更された場合は、誠に恐れ入りますが、住所変更のお手続きをお願い申し上げます。なお住所変更に係る所定の様式は、事務局に準備させて頂いておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

●登下校・登降園時の自家用車送迎禁止について

湘南学園では、園児・児童・生徒の登下校・登降園にあたっては、自家用車での送迎は原則禁止とさせて頂いております。園児・児童・生徒の安全確保はもとより、近隣の住民の方等への安全配慮もご考慮いただき、改めてご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。なお、園児・児童・生徒の病気や怪我等の特別な事情で止むを得ない場合は、必ず事前に学校(園)にご連絡くださいますようお願い申し上げます。